



横の森からの三本杭

かざね 四万十の風音

しんせん 森&川だより



ジャケツイバラ

◇地域住民による公園整備

「黒尊親水公園歩道整備」

4月18日、高知県四万十市西土佐の黒尊山国有林9林班にある黒尊親水公園内の歩道整備（環境保全型舗装）をボランティアにより実施しました。

この公園は四万十森林管理署が広く一般市民に癒しの場を提供するため整備したのですが、公衆トイレまでの歩道が未舗装のため、地域住民から車椅子などでの利用がしやすいよう舗装を望む声があり、当センターでは、日頃協働して黒尊川流域の環境保全や地域の振興に努めている「しまんと黒尊むら」に呼びかけ、歩道の舗装を行うことにしました。

当日は、「しまんと黒尊むら」のメンバーや高知県、四万十市の職員ら23名がトイレ周辺及び幹線道路からトイレへの歩道整備（舗装約130m・幅員1.4m）に汗を流しました。

参加者たちからは、「これで車椅子などの利用者は勿論、一般観光客にも大変喜ばれます」との声も聞かれました。

今後は、隣接する東屋を含め、交流や体験活動の拠点として、親水公園の活用が期待されます。



歩道の舗装を行うボランティア

◇滑床溪谷で森林教室

「滑床山開き」にあわせて

4月24日、足摺宇和海国立公園内にある滑床溪谷で、恒例となっている愛媛県松野町等主催の滑床山開きが行われました。

これに合わせて、遠足を兼ねて参加していた地元の松野南小学校の児童11名（目黒緑の少年隊）を対象に、愛媛森林管理署と合同で森林教室を実施しました。

始めに、クイズ形式で木の名前を当てるネイチャーゲームを行いました。



木の名前あてネイチャーゲーム

午後からは、パネルや模型を使って森林の働きについて体験学習をしました。

水の土壌浸透実験では、児童が実際に上



模型を使っての実験

からジョロで水をまくと、裸山は水が土の上を一気に走り、模型の家を押し流してしまいました。森林のある山は、樹木や落ち葉がクッションとなって土砂の流出を防ぎ、模型の家は無事でした。実験を通して、児童達は、森林は土砂の流出を防ぐ「緑のダム」として、大雨が降っても洪水が起こりにくい働きがあることが理解できたようです。

◆協働メンバーのイベントに参画 「四万十楽舎」で木工教室

4月25日、高知県四万十市西土佐にある社団法人「四万十楽舎」で10周年記念イベントが開催されました。

同楽舎は、四国森林管理局などが四万十川の支流、黒尊川流域の森林と清流の保全・再生などを通じて、地域の活性化に取り組んでいる「四万十くるそん会議」の協働メンバーで、森林環境教育も連携して実践しています。

当センターは、体験コーナーの木工教室を担当し、カブトムシや動物のストラップ作りを指導。

始めは、子どもの作業を見守っていたお母さん方も、「大人も作っていいですか?」と参加、親子で楽しそうに作製していました。

今回の木工教室は、「四万十くるそん会議」の活動を進めるとともに、来場者に木材への関心を高めてもらう取組となりました。



親子で楽しく木工

◆堂ヶ森風景林で木工教室

子供の日の5月5日、風景林として保護され、アカガシなど貴重な天然林が残っている高知県四万十市と四万十町の境に接する土佐堂ヶ森（標高 857 m）山頂で、毎年恒例の「堂ヶ森祭り」が、地域住民100名余りが参加して盛大に行われました。

祭りでは、神事後に餅投げやちびっ子相撲など楽しい催しがたくさんありました。



ちびっ子相撲

当センターでは、堂ヶ森周辺を森林教室などのフィールドとして活用しており、今回は、参加した子供たちを中心に、サクラの端材でキーホルダーの作り方を指導しましたが、中には「孫にやりたい」「自分の車に是非付けたい」と言う大人も。

堂ヶ森山頂での木工教室は、木立に囲まれての楽しい思い出と共に、心に残る有意義な一日となったことでしょう。



キーホルダーを夢中で作る子供たち

◇四万十・流域圏学会に参加

6月6日、高知県南国市にある高知工業高等専門学校で開催された四万十・流域圏学会第9回学術研究発表会で、「大道マツ再生の取組みについて」と題して、当センターが平成16年度から「森林生態系保全・再生対策事業」として取り組んでいる天然アカマツの再生について発表しました。



発表する隅田自然再生指導官

◇「三本杭に登るぞ！」

高校生に森林環境教育

6月11日、高知県立四万十高校1年生14四名を対象に、高知県と愛媛県の境にある八面山と滑床山（通称、三本杭）へ登山訓練を兼ねた森林環境教育を実施しました。四万十高校では、鹿児島県屋久島で自然体験研修を実施しています。今回は、そのための体力養成・登山訓練、自然環境学習をしたいとの学校の意向を受けて実施しました。登山道では、職員から樹木の名前や特徴、ニホンシカによる樹木の剥皮害について学習。ブナの群生林では、植生が四



八面山での四万十高校生

国南西での限界地域であること、一つの山で、温帯林の滑床側と暖帯林の黒尊側がある珍しい山であることなどを説明しました。生徒代表から、「今回の登山を通じ、森林についていろいろな体験や学習ができました。自然再生の大切さも理解出来ました。屋久島では、今日の体験を生かします」との感想があり、当センターも学校の意向に沿えることができたようです。

◇小学校で森林環境教育を実施

①校庭の樹木を学習

愛媛県の松野町立松野西小学校は、例年、4年生の総合的な学習の時間を活用した森林環境学習に積極的に取り組んでいます。

5月12日、今年度は「木を知ろう」をテーマに、第1回目は学校の周りにある樹木を学習することとしました。

最初に、「森林の働き」について児童達に解りやすく説明。そして校庭に出て39種類の樹木ごとに、葉っぱの特徴や名前の由来等について説明すると、児童達は、熱心にワークシートへ書き込んでいました。



熱心にワークシートへ記入

ふりかえりでは、児童から「自分の家の庭木と同じものがあり、家でも教えてやりたい、勉強になりました」などの感想があり、樹木への関心が深まったようです。

②樹木に「樹木名板」を取付

6月17日、2回目の森林環境学習は、1回目に学習した校庭の樹木の名板を作製し取付けました。

用意した輪切りの板を手に、思い思いのイラストや樹木名を下書きし、ポスターカラーで色付けしていききました。そして、完

成した樹木名板を持って校庭へ出て、前回の復習をしながら30本の木に取り付けていきました。児童からは、「一年生が見て



樹木名板を手に喜ぶ児童たち

も木の名前が分かるようになって良かった」などの感想がありました。児童達は、毎日目にする校庭の樹木に、自分たちが作った樹木名板を取付けることによって、全校で樹木名を覚えたり樹木や森林に関心を持つきっかけがくれたようです。

③木工教室の開催

6月23日、3回目となる森林環境学習は、木工クラフトに挑戦しました。

作業前に、クラフトに使用するソメイヨシノとウツギの名前の由来や特徴と、道具の安全な使い方を学習しました。材料を選

んだ児童は、職員の指導を受けながら、早速ノコギリやナイフを手に作品作りに挑戦。見本通りにカブトムシや動物のストラップなどを作ろうとする児童が多い中、試行錯誤をしながらも、自分の発想で立体作品を完成させた男子には、職員も脱帽。

ふりかえりでは、「難しいところもあったけど、世界にひとつだけの作品ができてうれしい」「家族にプレゼントしたい」などの発表があり、思い出に残る「木に親しむ学習」となりました。



何が出来るかお楽しみ



カブトムシ



ユニークな作品

もりのがくいくこうぎ

☆第3回「森林の楽（学）育講座」の開催

当センターでは、教職員を対象に森林環境教育の指導者の裾野の拡大を図ることを目的とした研修会「森林の楽（学）育講座」を下記の予定で開催します。講座では、当センターが作成した「森林環境教育プログラム」をいくつか体験していただきます。

記

高知県内の教職員対象：平成21年7月28日（火） 四万十市西土佐 津野川小学校
愛媛県 " :平成21年8月6日（木） 北宇和郡松野町 松野西小学校

☆ふれあいセンター：スタッフの紹介

所長 上席自然再生指導官 秋山雅弘
自然再生指導官 武内幸子
自然再生指導官 隅田雄二
（新任）自然再生指導官 古味敏光（平成21年4月1日付四国局四万十森林管理署から）
☆どうぞよろしくをお願いします。

林野庁 四万十川森林環境保全ふれあいセンター
TEL0880-31-6030/FAX0880-31-6031
〒787-1601 高知県四万十市西土佐江川崎2405番地